

【泉区】令和2年第2回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和2年6月16日 午後1時52分 ～ 午後3時05分
場 所	泉区総合庁舎4階 4ABC会議室
出席者	<p>【座 長】梶村 充 議員</p> <p>【議 員：3人】源波 正保 議員、麓 理恵 議員 横山 勇太郎 議員</p> <p>【泉 区：34人】深川 敦子 区長、鳥海 仁 副区長 村田 二郎 福祉保健センター長 竹田 良雄 福祉保健センター担当部長 木我 陽子 福祉保健センター医務担当部長 安達 秀昭 土木事務所長 小林 修二 泉消防署長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和2年度泉区運営方針について 2 令和2年度泉区個性ある区づくり推進費執行計画について 3 その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う対応について (2) 都市計画道路中田さちが丘線（岡津地区）街路整備事業について (3) その他
発言の旨	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和2年度泉区運営方針について 意見なし 2 令和2年度泉区個性ある区づくり推進費執行計画について 麓議員：迷惑電話防止装置の配布はどれくらいの個数を、どのように行うのか。 小澤地域振興課長：迷惑電話防止装置は1個あたり500円程度のもので、約3,000個の発注を予定している。配布方法については、7月に開催を予定している地域防犯協議会にて、一人暮らしの高齢者の方々を対象として設置するのはどうか、と相談したいと考えている。必要な方に設置ができるようにしたい。 麓議員：以前、地域の方に実物を見せてもらい、事務所にも設置している。

振り込み詐欺について、詐欺防止の1つとして電話機で録音することやテレビでも詐欺に関する情報が放送されているが、被害は減っていない。12 地区連合の防犯担当者が、地域の方々の自宅を訪問し、設置や様子を伺うことで、啓発につながる良い機会だと思う。

麓議員：地域活動推進費補助金交付事業など、地域や自治会町内会に補助金を交付する事業について、3点ほど確認したい。1点目は、予定していた行事が中止になった場合、その行事はどう扱われるのか。2点目に、それぞれの連合自治会町内会で予定していた行事開催に向けて、地域の皆さまから集めた会費の取扱いは連合自治会町内会任せなのか。3点目が、地域によっては来年の1月の賀詞交歓会の中止を決めているところもあると聞いている。地域の行事等の再開に向けての判断は、それぞれの連合自治会町内会の判断に任されているのか。もしくは、何らかの指針が出されるのか。

小澤地域振興課長：地域活動推進費補助金交付事業については、各連合自治会町内会の役員の方と相談をした上で、今年度の各行事を実施する予定で申請をいただいております。振り込みの手続きも行っている。一方で、申請の際は、今年度の行事の中止も考えられる、といった相談も受けている。その際は、申請された補助金を全額交付し、年度末の報告で行事が実施されなかった場合は精算し、戻入となる旨を説明した上で対応している。

また、新年会や賀詞交歓会など先の行事について既に中止を決めている連合自治会町内会があることも聞いている。自治会活動に対して、行政が介入し過ぎるのは難しいが、活動の再開や実施に向けて地域と一緒に模索していきたいと考えている。行事の中止だけではなく、時代に合わせた活動や、区の予算でどれだけできるか、も検討課題として認識している。

斎藤福祉保健課長：地域の方が活動再開にあたって、新型コロナウイルスを大変恐れているような印象を受けている。新型コロナウイルスは、当初わからないことが多く、区としても最大の感染予防対策をしていただくことを基本にお願いしてきたが、活動が停止したことで、介護が必要な方が増え、健康状態が悪くなってしまう人がいると聞いている。活動再開にあたっては、新型コロナウイルスを過度に恐れず、正しく理解し、適切に予防していただく必要がある。そのためにも、正しい知識や

新しい生活様式などの具体的な内容を広く周知しながら、活動の再開に向けて検討してもらえよう、様々な媒体を活用するなどして、地道にお伝えしていきたい。

麓議員：各連合自治会町内会長や単位自治会町内会長がそれぞれに横の連絡を取り合った上で考えていると思う。そこへ区役所が介入することで、泉区の強みであるつながりの強さを、アフターコロナを見据えて発揮してほしい。

麓議員：4月から6月はいろいろな人に会う時期だが、区長含めなかなかその機会が少なかったと思う。区長として、泉区の印象をぜひ聞かせてほしい。

深川泉区長：4月に泉区に赴任したが、以前から区役所で地域の方と一緒に課題解決に向けて考える業務に携わっていた。赴任して約2か月、地域の状況もわからないままだった。緊急事態宣言が明け、ようやく色々な活動ができるようになり、地域に何うことを楽しみにしている。

新型コロナウイルスの不安に対しては、地域がどのような情報を求めているのか、区役所として何ができるのかを寄り添って考えていきたい。

幸いにも泉区では、特別定額給付金の問い合わせや相談を見ても、他の区と比べて落ち着いている。地域の皆さんが自分の立場でやることをやってくれている。地域の中でのつながりを大事にされ、地域の皆さんもそれぞれが気にかけて、できることをやってくれていると認識している。地域のつながりはこれからの区役所の施策に欠かせないことから、一緒に新しいつながりを考えて取り組んでいきたい。よろしくお願ひしたい。

3 その他

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う対応について

麓議員：生活保護の関係で、特別定額給付金の相談を受けた。定額給付金は生活保護の収入認定にならないと認識していたが、生活保護の申請時、既に特別定額給付金の入金があった場合は、手持ち金として判断され、生活保護を受けられないと聞いた。本当か。

会澤生活支援課長：生活保護申請前に特別定額給付金が入金された場合は、手持ち金として扱う。生活保護申請後に入金された場合は、手持ち

金にはならない。

麓議員：生活保護をこれから新規で申請される方は、特別定額給付金が順次入金されていくことから、生活保護の対象にはならないということか。また、生活保護の申請はどの時点で受理されるのか。

会澤生活支援課長：生活保護は、基本的に最低生活費の半分を手持ち金として保有することが認められており、世帯人数によって手持ち金の保有限度額も変わってくる。その他にも65歳以上の高齢者世帯は葬祭扶助費相当分が追加になることから、更に20万円程度が手持ち金として認められる。そのため、個別にご相談するよう案内している。申請前の入金は手持ち金になるが、申請をした方、または保護受給中の方が特別定額給付金を受け取ることは問題ない。

麓議員：個別に相談をする必要があることがわかった。一方で、生活困窮の相談が増えていることから、生活を見通せないという不安も抱えている。窓口ではより丁寧に対応してほしい。

梶村議員：PCR検査について、泉区内ではどのように対応しているのか。

斎藤福祉保健課長：PCR検査については、保健所として窓口になり、横浜市の衛生研究所に回しているものと、横浜市医師会で実施しているものがある。これは、横浜市が市医師会と契約し、横浜市全域で検査会場を10か所程度設置できる予算を確保したもので、現在、8か所が稼働している。すべての区の医師会が全市の検査会場を使える仕組みになっており、近くにある検査会場へ、開業の医師から直接申し込みをいただき、検査を受けに行っている。検査は様々な曜日、時間で実施している。また、6月以降はタクシー会社の協力を得て、陰圧を備えた安全なタクシーで、無料で送り迎えが可能になり、より検査を受けやすくなったと感じている。

梶村議員：泉区内の患者数26名の内訳はどのようになっているのか。

斎藤福祉保健課長：6月12日時点で、ほとんどの方が退院されている。年齢の構成は、20代から90代までで、性差はみられなかった。高齢者の多くは施設入所者または他の疾患で入院されている方だった。就労されているほとんどの方には、勤務先や飲食での接触による感染と考えられるエピソードがあり、その中でも東京に関連するエピソードをお持ちの方が半数以上いた。70代未満の死亡例はなく、亡くなった方

には重篤な基礎疾患があった。

クラスターの対策については、区福祉保健センターの管理下であり、感染経路が明確なものや社会的に影響が少ないものについては、基本的に施設の場所や名称は公表していないが、既に公表されている湘南泉病院を含め、クラスターに至らない場合でも、クラスターの発生が危惧される施設や病院、事業所などには、施設調査へ出向き、市の保健所と連携して、保健衛生指導に当たっている。これまで、区内5か所を調査、指導した。

また、感染者数は、住民票の登録地で集計することから、泉区内の病院や施設で患者が発生した場合、その方の住所地に累計されることから、泉区が住所地でない限り、人数には反映されていない。

梶村議員：特別定額給付金について、4月27日以降に生まれた方は支給されないが、現在、横浜市独自に給付ができないか働きかけをしている。もし、把握していればどれくらいいるのか教えてほしい。

鳥海副区長：後ほど報告する。

源波議員：患者数について、住民票の関係でこれ以上いることがわかったが、高齢者や認知症等ですぐに入院ができなかった方はいたのか。

斎藤福祉保健課長：市内の患者発生のピーク時と重なっていたが、陽性がわかり次第、速やかに、市保健所と連携し、入院調整を行い、全員が入院できた。

源波議員：6月4日発行のタウンニュースでの広報は、質問形式での内容でとても分かりやすく良かった。高齢者患者の対応も含めて、本当にありがとう。

防災拠点での感染症対策はどのように考えているか。震災と水害が重なった際の対応など、既に地域の方からの相談や意見も聞いていると思う。

岡本総務課長：避難場の運営について、地域防災拠点の総会は5月27日に書面開催しているため、まだ意見交換ができていない。感染症対策については、地域防災拠点の運営委員長へ資料を配布した。また、神奈川県から6月に「新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所運営に係る考え方」が示されたため、今年度の運営委員長を確認した上で、委員

長会を開催し、感染症対策をした上での避難所の運営を検討する。例として、避難所の区画を設定しての案内、マスクや消毒液の設置、受付の方法、健康チェックの問診票などを用意した上で、安全な避難所開設に取り組んでいきたい。

また、風水害での避難については、既に広報よこはまに掲載しているとおり、原則、安全確保をした上で自宅にいていただき、避難が必要になった場合は感染症予防をした上で避難していただく。自宅にいるのが危険で、避難をせざるを得ない場合は、パーティションを用意し、安全な避難所が設営できるよう、区の防災訓練等を行う予定でいる。

源波議員：地域と協力してやっていくのはもちろん、自助も大事と感じている。実感できるいいチャンスなので、わかりやすく広報するなどして取り組んでほしい。

(2) 都市計画道路中田さちが丘線（岡津地区）街路整備事業について

麓議員：権太坂和泉線と中田さちが丘線とが交差する部分に、整備が完了後、信号は設置されるのか。

故島道路局建設課長：権太坂和泉線の一部（資料4の右側図面の青い点線で示している部分）は整備が完了しておらず、完成イメージ図にある名瀬街道と中田さちが丘線が交差する部分について、信号をつける予定で警察と協議している。

梶村議員：以前から話しているが、泉区の交通体系が変わる。その際は、バス会社も含めて、区役所と一丸になって検討して欲しい。中田から岡津、緑園方面へ向けての道路は幹線道路に匹敵する。高齢者にとっては貴重な道路になるので、ぜひとも考えてほしい。

(3) その他

梶村議員：コロナ後の地域との連携は大事と思っている。他区とも相談上、対応してほしい。全市的に活動意欲がなくなっている。地域の方と連携してほしいと市会議員全員が思っている。地域に出ようと思ってもどこにも顔を出せない。朝の挨拶を始めた程度。情報分析を密に気を付けてやって欲しい。

深川泉区長：地域の活動が今は停滞している状態。新しい形でどのような活動ができるのか。地域の皆さまと一緒に考えながら、少しずつ新しい様式での地域活動を広げられるよう、頑張っていければと思っている。

	その際は、よろしくお願いいたします。
備 考	